

Ⅱ 1年のスケジュール

牧草（採草地）の栽培暦

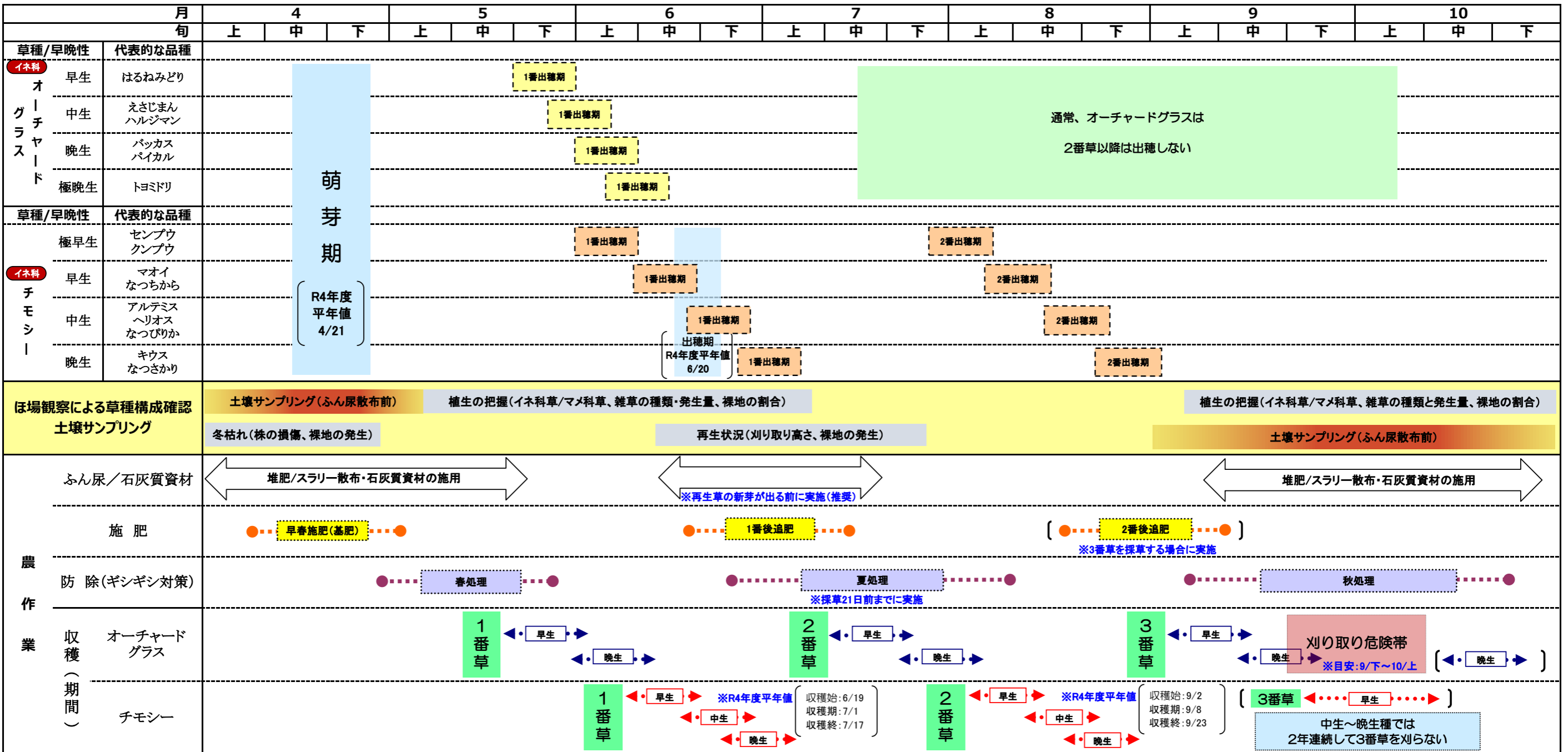
○一般的な草地の完全更新では、イネ科草（オーチャードグラス・チモシー）を基幹とし、補助的にマメ科草（クローバ類・アルファルファ）を組み合わせます。

※雑草対策を目的にイネ科草のオーチャードグラスとペレニアルライグラスを組み合わせたり、数種類のイネ科草を混ぜては種する事例や、マメ科草のアルファルファを基幹草種とすることもあります（いずれも個別の判断）。

○既存の牧草地の収穫時期も考慮し、イネ科草の出穂期（収穫適期）が集中しないように草種・品種を選定します。年間の収穫回数はオーチャードグラスは3回、チモシーは2回が基本です。※チモシーでは年3回の翌年は2回刈りを推奨

○牧草は多年生ですが牧草地を構成する草種は一定せず、その後の管理次第で移り変わります。春先の萌芽期や収穫後の再生には十分な養分が必要となりますので、草種の生態に合わせた施肥管理を行い肥料成分に富むふん尿を活用します。

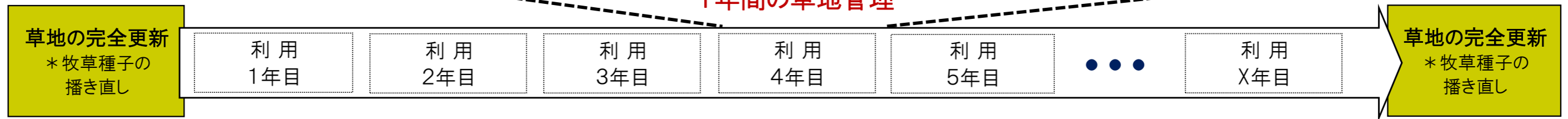
○牧草地の草種構成（変化）の確認は、自ら実施しましょう。土壌の酸度矯正と牧草体へのカルシウム補給を目的に石灰質資材を施用し、収穫物（牧草製品）の栄養価低下につながる雑草の防除は、除草剤で適宜処理します。



※図中の平年値(月日):作況データ

◎上記の「栽培暦」は、維持管理を行う“ある年”をイメージしている

1年間の草地管理



更新サイクル〔個別の判断〕

※次の更新までの年数は、①生産性の低下(単収・栄養価)、②草種構成の変化(雑草侵入・裸地拡大)、③ほ場条件(土壌硬化・排水不良)、④草地整備事業のタイミング等により決められる